慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	トマス・J・ワーテンベイカー 中西部の型成
Sub Title	
Author	中村, 勝己
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1952
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.45, No.5 (1952. 5) ,p.356(60)- 358(62)
JaLC DOI	10.14991/001.19520501-0060
Abstract	
Notes	論文紹介
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19520501-0060

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

著者の商業史についての見解を最もよく具現したものとして注目すべきである。著者は先ず大阪商業が江戸に安價大量の商品を積送るという幕府の方針下に江戸物價との關連において特殊の商業形態を示す點を指摘した後、正德四年（一七一四年）の大阪出入荷商品及び享保九年乃至十五年（一七二四―三〇年）の江戸送商品に關する史料から燈油原料と絹製品が出荷物の首位を占めることを明らかにし、この二つの商品に關してその生産地との關連に於いて大阪商業の特殊形態を探る。第一の油（菜種油・綿實油）の場合は初期には大阪の油稼仲間に特權を與え地方の油稼を抑制することを以て幕府の方針としていたが、天保年間の油方取締の改革以降價格を低下せしめる目的から地方搾油業者の活躍を認める方向へ進んだ。これに對して第二の絹製品の場合には、村方の原料生産者と新興商人が舊來の特權的株仲間と强く抗爭するが、その結果は特權商業が變容して在郷商人を古い封建的統制の枠内に吸收することによつて、新しい芽は抑制されてしまうというのである。大阪周邊農村の分析は最近頓に活潑化し、既に平野郷における綿作や、綿作地たる菱屋新田に關する研究などが發表され、古島氏自身も布施市周邊の分析を豫定していると記しているが、右の結論はこのような農村構造の面からの諸研究とどのように關連してくるか、興味ある問題である。兎も角もこのような大阪周邊の商品生産の發展が新興運輸機關を發生せしめ、これが舊來の特權的運輸機關と抗爭するところに交通史の問題が生ずるのであつて、第三節以下はこのような例として上荷船・茶船と劍先船及び陸上でのべか車・馬借の對立、更に菱垣廻船と樽廻船の角逐が取上げられている。交通史は商品輸送史でありその意味では商業史でもあるという著者の意圖がここに貫徹されているのである。

論文紹介

トマス・J・ワーテンベイカー
「中西部の型成」
（Wertenbaker, Thomas J., "The Molding of the Middle West" American Historical Review, Vol. LIII, No. 2, January, 1948. PP. 223-234.）

中西部の一婦人が「東部からは嘗て何も良いものは出來なかつた」と言つた時、彼女は西部の創造に對して有した東部の影響を輕視する多くの歴史家・著者を代辯した。併しアパラチア山脈以西の文明の發展は、その源である大西洋岸の文明を創出した力を研究する事によつて洞察出來よう。その力には、繼承物・地方的條件・ヨーロッパとの絶えざる交渉・坩堝（メルティング・ポット）の四つがあつた。

初期の我が文明の隅の首石はヨーロッパ人――英・蘭・アルスター蘇蘭・獨・佛・ウォルーン（ベルギー南東）・フランドル・芬蘭人――の移住によりすえられ、ジェイムスタウン、ニュー・ネザランド、プリマス、メリランド、サウス・カロライナ、フィラデルフィア等を據點として發展した。其は言語・宗教・傳統・慣習・政治・農法・建築樣式・手藝等の繼承物である丈でなく、地方的條件――土壤・氣候・地勢等――の産物であり、各植民地は相互に又英國とも異る文明を有した。そして植民者はこの坩堝で異質な文明と接觸し鬪爭しつゝ融合して行つた。他方ヨーロッパ就中英國との絶えざる交渉により多方面に亙つて英國風の影響を受けた。

この東部文明の定礎と發展は西部の其の型となつた。東部の西部に對する役割は、ヨーロッパの東部に對する其である。西部の文明は東部の其と異つてゐるが、ニュー・イングランド、ヴァジニア其他の諸州を知らずしては理解出來ない。東部文明の西部への移植は最も無視されて來た問題である。ヴァジニア、メリランドから移住者はオハイオ、インディアナ、イリノイ、ケンタッキー、ミズーリへ宗教・奴隷制度・建築法・慣習等を携へて、又アラバマ、ミシシピ、アーカンソ、テクサスへ移住し、又ニュー・イングランドからは、痩せた土地から生活資料を獲るに疲れた農民、出港停止令・一八一二年の戰爭・一八一六年の關稅により失職した水夫、政治的自由の制限を憤る貧民及び國教反對者が主として「北西部」に新しいニュー・イングランドを建設した。職業を求める貧者・巷を彷徨する職人は豐かな土地を見出し、ハドソン河以東の文明を移植し、ニュー・イングランド型都市を形を變へて到る所に建設する。教會・學校・裁判所は皆東部の影響下にあつた。他の諸州についても事情は同じであつた。移民の中には貧しい職人・農民以外に、富裕なイランター・土地投機業者・商人が混つてゐた。彼等は西部を幾分保守的にし、出來る限り東部の貴族政治を再現せんとした。

にも拘らずアルゲニ山脈の頂に立つた東部人は、彼の眼前にくりひろげられた大溪谷を眺めた時、如何に西部が東部と異つた社會であるかに一驚した。西部は凡ゆる人を徐々に西部化した。F・J・ターナーは西部文明の型成に於ける邊境の意義を强調し過ぎた。アメリカ民主主義の源は邊境ではなく、ウェストミンスター・ホールであり、其が植民地に移植され、一世紀半に亙つて植民地議會と知事との間の政治的鬪爭によつて强められ、更に其を最も價値ある繼承物と看做す人々によつて西部に持込まれたのである。併し西部の天地は凡ゆる意味で東部とは異つてゐた。西部の型成に與つて力あつたのは、繼承物や地方的條件以上に坩堝の力であつた。こゝで各移住者は夫々の過去を擔ひつゝ競爭し融合して行つた。奴隷制度・宗教・農法・禁慾的生活態度等を繞つて南部人とニュー・イングランド人は著しい對照を爲しつゝも、その中からやがて西部人が出現して

來た。そしてかゝる對照的要素の多くは、實に獨・英・愛蘭・瑞西・和蘭人移民が母國から擔つて來たのである。

アルゲニ山脈によつて東部から隔てられた西部は、多くを東部に負ひつゝも、經濟的にも、建築樣式に於ても、宗教・教育に於ても、異質的文明を創出して行つた。メインからジョージア迄を特徴づける樂觀的・民主的・精力的・自恃的・進取的なアメリカ文明の中にも、異質的な四つのセクション即ちニューイングランド、南部、中西部及び太平洋岸がある。このセクショナリズムの重要性は十分知られてゐるが、各セクション間の文明の移植、舊セクションの新セクションへの絶えざる影響、地方的條件の効果については恐るべき程研究が缺如してゐる。古の歴史を顧るのは魅惑的であるが、ミシシピ溪谷の巨大な圓形劇場に繰りひろげられる中西部の建設と發展の物語は其に勝つて興味深い。我々は、偉大な中西部を創造した力を充分理解出來る樣に、將來この物語が一層明かにされる事を切に希望するものである。

（中村勝己）

ヘルベルト・ケェニヒ

「ジョン・ロー計畫における國家の指導」

(Herbert Koenig, "Die staatliche Lenkung im System von Jhon Law," Schmollers Jahrbuch, Jahrg. 69. Heft 6. 1949, S. 89-102.)

著名な實踐家ジョン・ローは同時に卓越した理論家でもあつた。彼は次の如く考へた。「小資本を集め大資本として使用した場合には意外な利益がある、資源に乏しい國家における重要物資の政府管理が公益に反するとは思へない、商人は團結に依つて信用を倍加し得る、業者の一體化は貿易における安全の保證となる、小貿易會社の統合は無駄な競爭を排除することに依つて收益を大ならしめる、輸入品も大量となれば却つて廉い、如何なる競爭に依つても最早やこれ以上に廉くはなり得ない價格のみが安定を保ち得る、鑄貨の價値は標章に據らず內容に存する、貨幣の惡鑄は國民を苦しめ國王を貧しくする、賣買に際し如何なる種類の商人も金錢不足のため必要以上に妨碍されてはならない、信用は流通手段の有力な代用物として役立ち得る、高利は許せない、金銀の輸出禁止を徹底させることは不可能に近い、出超に依る利益の獲得を目指す場合には產業の振興が不可缺の要件である、各種奬勵金の設定は產業立國の大前提となる、必需物資は公正に分配さるべきである、國家の如何なる機關も相互依存の關係にある。」偶然の機會に書かれた彼の諸著作において展開されたかゝる議論は、確かに時代に先んじてをり、又正しいことも多かつた。

推論の根柢において然しローは常に國家に依る指導の重要性を强調し、國王を絶對權者と看做してゐる。特異なこの經濟指導者ローに依れば、「國王以外の何人も幣制に容喙することは許されない、國家に依つて强制指導された場合においてのみ事業は成功し得る、經濟の破綻は從つて國王の措置に對する一般の不信任に基因する、不都合な如何なる行爲も國家に依つて糾彈されなければならない、國策の遂行にすべてが投ぜらるべきである」。國家に依る指導の重要性を强調したかゝる議論は、然し次の章句において最も顯著であらう。「大衆に自分等の眞の利益を悟らせ、それに向つて努力させること以上に困難なことはない。計畫にとつて恐るべき何かゞあつたとしたら、一部において主張される如く、專制支配ではない。寧ろ專制支配にその基礎を負つてゐる。計畫が立派である、又大丈夫なだけ安全にするため努力することが肝要である等のことをいつてゐながら、かくいふ人々の不安・興奮・不埒な行動こそ却つて危い。民衆は自分等の幸福「の實現」について決心したり、自分等の幸福「の實現」を繰り延べたり出來る。かゝる場合にも國王に依る權力の行使が適切であるやうに見える。人々を勝手な行動から救ふためには、法律が必要である。貨幣や銀行券に關聯して、一部においては、確實な措置を無理な取極と看做してゐる。彼等に依れば、國王は强權に依つて融通を受けてゐるに過ぎない。このやうな議論をする人々は、全く短時日のうちに全王國を統監すべき新計畫の細目に留意してゐないのである。計畫の提案に關する限り、追々誰にも贊成されようが、然しかゝる信頼は計畫の原則が持つ性格から來るのである。この書簡において屢々それについて觸れた時、私は、この原則が誰にも共通な概念であり、すべての人の肝に銘ずべき原理であることを强調しておいた。我々はこの原則に絶えず反對した前政府をも同時に非難するのである。一言すれば、こゝに提案した原則のやうな舊いものはないが、然し未だ嘗て是認も適用もされたことがなかつた。計畫はかゝる原則を基礎としたから、斬新のやうに見え、從つて反對され易かつた。かゝる反對は到底一日では除かれ得なかつたから、國家が助力せざるを得ない。」國家に依る指導の重要性をかく主張したこの爲政者に從へば、食糧不足の全責任は國家にあるのであつて、對策の一端としての交通路の整備・倉庫の公設は、政府の重大な義務の一つとなつたのであつた。

大膽なこの政治家は、國家の徹底した指導が同時に國民の私生活全般にも亙るべきであるといふ。勿論これは、個人の耐乏生活が國家活動の全體に及ぼす意外に大きい影響を顧慮しての措置ともいふべきであつて、この場合特に勤勉と節約とが强調されたのであつた。即ちローに依れば、「國民を一段と勤勉にする、消費を減ずる等のことは、原因を除くことに依つて結果をなくすのである。これ等の措置に依つて外國貿易は有利となり、かくして外國の現金や貴金屬が國內に齎らされる」「支出が收入を上廻る人は貧乏する。消費が生產の總額や國民の勞働量を上廻る國家とても同樣である。自國の原料や製品の消費は